第七課　友人の部屋を訪ねる②

A 请 坐 吧。 我们 的 房间 很 乱。

Qǐng zuò ba. Wǒmen de fángjiān hěn luàn.

B 哪里。

Nǎli.

A 请 喝 茶 吧。

Qǐng hē chá ba.

B 谢谢！ 这 个 茶 很 香， 是 什么 茶？

Xièxie! Zhè ge chá hěn xiāng, shì shénme chá?

A 这 是 花茶。 还 有 点心， 请 尝尝 吧。

Zhè shì huāchá. Hái yǒu diǎnxīn，qǐng chángchang ba.

B 谢谢！ 很 好吃！

Xièxie! Hěn hǎochī!

A 是 吗？ 这 是 上海 的 特产。

Shì ma? Zhè shì Shànghǎi de tèchǎn.

第八課　学内を案内してもらう①

文化知識　上海の名物“大闸蟹”（dàzháxiè上海蟹）

日本では上海蟹の名で知られる上海の名物料理。繁殖期を迎える秋がとくに美味しいとされ、“九圆十尖”といわれるように、雌は卵でお腹丸くなる旧暦9月（10月頃）、雄の食べごろは白子でお腹がとがる旧暦の10月（11月頃）が食べごろ。民間の伝説では、この中に『白蛇伝』の法海和尚が隠れているといいます。



A 这儿 有 取款机 吗？

Zhèr yǒu qǔkuǎnjī ma?

B 有。 在 那儿。

Yǒu. Zài nàr.

A 对面 的 那 座 楼 是 什么？

Duìmiàn de nà zuò lóu shì shénme?

B 那 是 上外 健身 中心。

Nà shì Shàngwài Jiànshēn Zhōngxīn.

A 那 里边儿 有 什么？

Nà lǐbiānr yǒu shénme?

B 有 游泳池、 健身房 和 室内球场。

Yǒu yóuyǒngchí、jiànshēnfáng hé shìnèiqiúchǎng.

A 太 好 了！ 咱们 去 看看 吧。

Tài hǎo le! Zánmen qù kànkan ba!

ポイント　“有”と“在”

（存在）場所＋“有”＋人や事物　（例）那儿有取款机。

（所在）人や事物＋“在”＋場所　（例）取款机在那儿。

練習問題

①この近く（附近fùjìn）にトイレ（洗手间xǐshǒujiān）はありますか？

这附近有洗手间吗？/ 这附近有没有洗手间？

②すいません、トイレはどこですか？

请问，洗手间在哪儿？

文化知識　上海名物“大闸蟹”（上海蟹）と“蟹和尚”の伝説

西湖の名勝の中で私が最初に知ったのはこの雷峰塔だ。祖母がよくこの塔の下には白蛇が閉じ込められていると話していたからだ。許仙という人が青と白の二匹の蛇を助けた。すると白蛇が恩返しのために、女の子に姿を変えて嫁いできた。青蛇も侍女に姿を変えてついてきた。法海禅師という偉いお坊さんがいて、許仙の顔に妖気が出ているのを見て──非凡な力を持った人にしかわからないのだが、妖怪を妻にすると顔に妖気が出るそうだ──彼を金山寺の法座の後ろに隠した。白蛇は夫を探しにいき、「金山の水攻め」をした。祖母が話すともっとずっと面白い。出どころはたぶん『義妖伝』という弾詞なのだろうが、私はそれを読んだことがないので、「許仙」 にしても「法海」にしてもこう書くのかどうかよくわからない。

とにかく白蛇は法海の計略にかかって小さな鉢の中に封じ込められてしまった。鉢は地面の中に埋められ、その上に魔物を封じるための塔が建てられた。それが雷峰塔だ。この後、「白状元、塔を祭る」などいろいろな話があったようだが、いまではすっかり忘れてしまった。雷峰塔など倒れてしまえばいいのに。当時の私はそればかり願っていた。（中略）

その後、玉皇大帝も法海のお節介のおかげで衆生が苦しめられているのに腹を立て、彼を捕らえて罰することにした。すると、彼はあちこち逃げ回り、とうとう蟹の甲羅に隠れて二度と出て来られなくなってしまった。いまもそのままだという。（中略）

　秋が深まり稲が実るころ、呉越地方ではたくさんの蟹が捕れる。ゆであがって真っ赤になったら、どれでもいい、背中の甲羅を剥がしてみるといい。なかは蟹味噌、メスなら石榴のような真っ赤な卵がある。これを食べてしまうと円錐形の薄膜が出てくる。円錐の底を小刀で丁寧に切り取り、裏返すと、破れていなければ達磨のような形になる。頭も体もある座禅姿で、私の田舎の子供たちは、これを「蟹和尚」と呼んでいる。これが蟹の甲羅の中に隠れた法海だ。むかし白蛇娘娘は塔の下に鎮められ、法海禅師は蟹の甲羅の中に隠れた。そしていま、この坊さんだけが座禅を組んだまま蟹が絶滅する日まで出て来られないのだ。彼は塔を建てたとき、塔はいずれ倒れるものだということに気づかなかったのだろうか。いい気味だ。

～魯迅「雷峰塔の倒壊について」（『語絲周刊』第1期1924年）